

令和5年4月定例記者会見要旨

開催日時 令和5年4月24日（月）午後3時00分 302会議室

（総務部長）皆さんこんにちは。ただいまより4月の定例記者会見を開会いたします。市長よろしく申し上げます。

（市長）先ほど当選証書附与式にて当選証書をいただいたところですが、4月の定例記者会見は、今任期の最後の定例記者会見です。今までの4年間記者クラブの皆様には大変お世話なりありがとうございました。来月の予定等を中心にお知らせしたいと思います。よろしく申し上げます。

5月1日は私の初登庁になります。9時から市長就任式を行い9時半から市長就任の記者会見を予定しています。よろしく申し上げます。

5月6日に第1回諏訪市二十歳のつどいを開催します。成人年齢が18歳に引き下げられ、昨年は18歳から20歳までの皆さんを一斉に成人として、「種まくブックプレゼント」でお祝いいたしました。18歳は大学の進学や就職などの準備もあってお正月の時期には慌たしいという声もある中で、二十歳という節目に懐かしい友人と集って二十歳のつどいを行いたいという声も多かったことから、初めて「二十歳のつどい」をこの連休中に開催することになりました。参加者の中から実行委員を募集し、会の企画内容やパンフレットの作成などの準備を担当していただくほか、当日の運営なども担当いただくことになっています。4月17日時点の申込者数は、対象者が461人の中で233人の方にお申し込みいただいております。内容については、オープニングイベントとして、諏訪清陵高等学校音楽部の皆さんに記念合唱をしていただきます。そして、先輩からの激励、参加者から「二十歳になった私の思い」を発表していただき、各ブロックに分かれて記念写真の撮影をいたします。それから、参加者特典として、実行委員の皆さんが作成したパンフレットと市の職員募集案内、就職企業ガイドが配布されます。

次に、令和5年度すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト【通称：ゆめプロ】」第1期生のメンバー募集についてです。キックオフを5月13日にすわチャオにて教育委員会と市の主催で行う予定で、現在市内4つの小中学校からそれぞれ1名ずつ、計4名の参加申し込みがありますが、もう少し募集したいということで、締切日を延長させていただきました。募集締切が4月25日まででしたが、5月9日まで延長をさせていただきます。このプロジェクトの初年度の全体テーマを「ゼロカーボンシティの実現に向けて」としております。メンバーの一人一人が知恵を出し合って、仲間と協働して調べたり考えたりする活動を通じてテーマの答えを探すというプロジェクトになります。市長部局と教育委員会事務局が連携して取り組みを支援し、その成果や未来の諏訪への思いを市長、教育長に提言していただく企画になっております。ぜひ多くの子どもたちに参加していただきたいと思っていますので、皆さんにはぜひ宣伝の方をよろしく申し上げます。

5月15日に新しく改選になりました市議会の臨時議会を招集いたします。

5月21日に諏訪市の水防訓練を実施します。近年の異常気象における局地的豪雨災害や台風も激烈化しており、そうした災害に備えるために、水防活動の基礎知識や技術習得を図り、水防技術の向上及び伝承を行って、出水期に備えることを目的にしております。コロナ禍で規模を縮小したり二部制など感染対策をしながら工夫して継続してまいりましたが、4年ぶりに従来とほぼ同規模のやり方で開催します。参集範囲は消防団、各防火防犯組合、諏訪市職員を予定しています。

5月23日は平日になりますが、霧ヶ峰の開山祭がございます。5月27日は茶臼山の配水

池で第100回上水道記念式を開催します。発足当時に第1回を開催しており、水道事業の100周年は来年になります。今回は例年同様の開催とし、来年の101回を開設100周年記念イベントとして開催する準備を進めているところであります。主催は水道局職員OB会で、神事を行っていただいた後、私が公営企業管理者として挨拶をし、ご祝辞をいただくなどしておいしいお水で乾杯ということです。

5月28日は第54回高島城祭を、4年ぶりに公園裏の市道の交通規制などを行い、従来どおりの祭りとして開催することになりました。短歌や俳句、川柳の展示や、高島城の無料入場、物販の出展団体やステージ上の催しも人気で賑やかに開催ができる予定です。また、長野国際文化学院の生徒さんによる「水餃子」の無料サービスがあります。今回はトルコ・シリア大地震やウクライナの支援を目的とした「チャリティ餃子」として来場の皆様にお気持ちをいただく募金箱を設置する企画になっています。飲食スペースはエリアを限定して、護国神社のあたりでご協力いただくとともに、皆さんに参集していただきたいと思っております。

守屋山が開山祭を迎え、5月7日に皆様からクラウドファンディングでご寄附をいただき設置できた環境トイレのお披露目式も農林課で準備しております。

お手元に配布いたしましたプレスリリース資料で、新成人へのお祝い「種まくブックプレゼント」についてです。出版社岩波書店のマークでもある「種まく人」からこのようなネーミングとしましたが、創始者岩波茂雄の出身地である諏訪市として風樹文庫もあることから、岩波新書または岩波ジュニア新書の中からご希望の本を1冊プレゼントする企画であり、対象は令和5年度に18歳になる諏訪市在住者、出身者（平成17年4月2日から18年4月1日生まれの方）となります。4月28日以降にご案内通知が届きますので、締め切りの10月31日までの間に選んで申込みをしていただきたいと思いますと思っております。

原田泰治美術館の原田泰治先生の追悼展がオープンとなり、81歳でご逝去されました先生の遺言に則って81発の音花火を上げたところですが、5月14日には文化センターにて、先生を偲んでナイーブアートの足跡を振り返るイベントがございます。美術館友の会の皆様や、関係のご招待者を中心としたイベントですが、皆様にもご承知いただき、報道等をお願いできたらと思います。

本日4月24日に「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」が発表になりました。冊子と参考資料の2冊セットを皆様に公表しております。

（記者との質疑応答）

○諏訪シネマズ認定について

（記者）「怪物」が認定されるか。

（市長）今週試写会があり、監督が当市にご来訪予定になっております。フィルムコミッションの方でも推奨しており、そのように準備を進めているところと聞いております。

（副市長）諏訪シネマズに認定されるということで今準備を進めておりますが、日程等が確認でき次第、また観光課からご案内させていただきます。

○市長就任について

（記者）当選証書を受けての心境と、市議選の投票率が44.83%で5割を割り込んだことについての受け止めは。

（市長）選挙管理委員長の挨拶の中で、選挙戦を通して市民に約束をした公約について一つ一つ実現に向けて努力するように、というお話をいただきました。しっかりと胸にとどめて、初心を忘れることなく、また公約をしました3期目のマニフェストを示してありますので、一つ一つ丁寧に、そして全力で取り組んでまいりたいと、改めて心に置いた次第です。市議選の投

票率が全国的に下がっていることは報道で見えております。諏訪市もその大きなトレンドの中にあるという認識で捉えたいと思っております。分析についてはいろいろな見方があると思いますが、選挙の争点が投票率に大きく関連してくるポイントだと思えます。市長選は全県全国的に無投票というムードの中で、私の1票が政治を左右する出番という緊張感や緊迫感がそれほど強くない選挙だったのかもしれないというのが一つあります。それから心配なのは、政治への関心離れ。民主主義の手続きとして基本となる選挙において、少し危機感を持たなければいけないということで、私たち政治に関わるものとして胸に置いておかなければいけないポイントだと思えます。選挙のあり方や方法が随分変わってきて、昔は遊説カーなど現実の目で見て感じることで関心が皆さんの興味を奮い立たせるようなやり方であったところが、最近はネット社会になり、SNSなど表に出てこないところでいろいろな情報が出ていたり共有され、目に見えたり肌で感じる場所でも選挙が動いているといったことも要因として考えられると思えます。いずれにしても、現実として投票率が下がっていることについては胸に置いて、今後の仕事に取り組んでまいりたいと思っております。

○Chat（チャット）GPTについて

（記者）導入への考えは。

（市長）Chat（チャット）GPTは、ネットの中の情報を取りまとめた一つの案としての提示という意味では、人の手の及ばない範囲を網羅するという意味で、結果とすれば尊重するものとして捉えたいと思えますが、それがすべてではないということ、それを判断する機関や個人、これはやはり主体的な判断であり、機械的な作業で取り出されたものに対して人としていろいろな認識や意向、意図を持って判断する部分もありますので、市としてどのように利活用できるかは、担当課とも相談したいと思えます。

○諏訪湖祭湖上花火大会、新作花火大会について

（記者）8月15日の花火大会への期待、思いは。中止となった新作花火大会への考えは。

（市長）4年ぶりに諏訪湖祭湖上花火大会を開催することが決定しました。たくさんの皆さんが期待を寄せてくださっています。やるからには、事故なく安全であること、皆さんの期待に応えられる大会であることの二点に焦点を絞って、皆さんにお力添えやご協力をお願いしたく準備をしています。私自身も諏訪湖の花火には特別な思いがあるので、ぜひ成功させたいという思いであります。ただし、前回の大会から4年経過しているので、すぐにV字回復で同じように段取りができるかという点、なかなか簡単ではありません。昨今の景気の状態や燃料費や物価の高騰がある中で、スポンサーの皆さんの状況であったり、柳並線が開通し自転車道ができるなど様々な条件も変更になっている中で、交通対策や雑踏警備、課題となっていた飲食に関してはフードコートを別に設けるなど様々な工夫も織り込みながら初回のトライアルということにもなります。気持ちを引き締めて取り組まなければならない大会であり、皆さんとともに一致団結して成功に向けて準備したいと思っております。新作花火大会につきましては、例えば4年間風雨にさらされていた資材等を新しくするなどの様々な課題があるため、これを立て続けに今までと同じように大会をやるといった時に少し無理がたたってしまうことの懸念がありました。また、もともと新作花火大会は4年前の段階において、いろいろな課題を持っており、それに対して検討委員会を開催することが合意されておりました。その検討委員会はまだ開催されていないので、本年においてはまず課題の整理、そして準備をすることで、8月15日の大会を開催しつつ新作の将来を固めていく段取りにしたいと思っております。今まで通りの大会での開催は難しいという判断になった次第です。

（副市長）過日の実行委員会が決まりましたように、検討委員会がこれから立ち上がっていき

ます。検討委員会の中で議論されるテーマは大きく二つあり、一つは来年度以降の新作花火大会をどうしていくか、もう一つ、今年は大会形式では開催しないが、それに代わる新たな企画ができるかどうかについて検討委員会として検討していきますので、もし代わるものの企画がまとまりましたら、その時点でまた実行委員会を開く可能性があるということをご理解いただければと思います。

（記者）4年前の課題とは。

（副市長）一つは来場者数の減少による収支バランスです。ここ数年、新作花火大会のチケットがすべて売り切れなかったことによって、これからどういう規模でどういう内容で開催するのが大きな課題としてありました。その背景には、ここ4、5年の間に全国のいろいろな箇所で独創的な花火大会、小規模でお客様の趣向を絞った形の花火大会がたくさん生まれてきたこともあり、当初の新作の魅力が少し薄れてきているという課題もあります。検討委員会を開いて新たな方策を検討していくべきではないかというところ、コロナ禍となって検討委員会が開かれずにきてしまっていたことなどもその一つであるにご理解ください。

○霧ヶ峰高原の火入れについて

（記者）中止になってから10年になるが、再開の目途はあるのか。草原を維持していくための対策は。

（市長）草原の火入れは、害虫駆除や新しい芽吹きへの準備として効果のある手段と承知しております。私が市長になってからは開催しておりませんが、大きな火事になったこと、周辺の森林を類焼したことによって謝罪をしたり、自衛隊まで出していただき大変なご協力の中で収めたことを考えると、そうした災害になった時に支援の出動要請をする立場である市長が火をつけるという仕組みが本当に良いのかどうか。牧野組合や草原を維持管理してきた皆さんがされることに関して、役所とすればそれをカバーしたり支援したり、いざという時には速やかに対応できる体制であるのが、本来ではないかという思いもあります。ただし、皆さんとまだ具体的な話し合いが進んでおりませんので、また関係者や担当部局等と確認しつつ、皆さんにお知らせする時にお知らせしたいと思います。

（総務部長）冒頭申し上げましたが、5月1日に改めて市長3期目の就任、また初登庁にあたっての記者会見を開催する予定ですので、よろしく願いいたします。以上をもちまして4月の定例部長会議を閉会します。ありがとうございました。